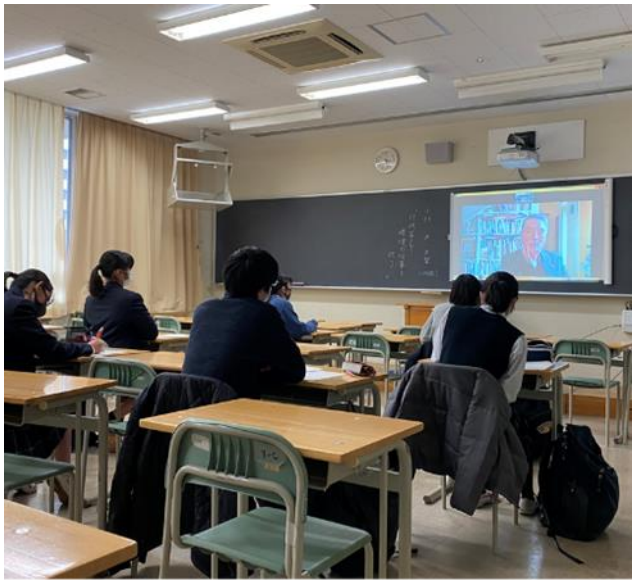
# 進路指導部・第１学年「キャリアガイダンス」参加生徒感想



令和３年２月１０日(水)、１３時４０分から１５時４０分にかけ、社会の様々な分野で活躍される１５名の卒業生諸氏にご参加いただき、第 1 学年の生徒を対象にキャリアガイダンスが実施された。受験や大学生活、また、その後の人生における貴重な経験をお話しいただき、1 年生にとって、進路の可能性や、社会で必要とされる能力、今できることなどを考える良い機会となった。先輩諸氏のお話に耳を傾け、参加生徒、がどのように感じたのか、以下にその声を紹介したい。

**講義１　建築　原田将司氏**

**「寝ても覚めても建築」**

今日のガイダンスを受けて、最初に驚いたことは、「建築」≠「建物」という考え方です。僕は今まで「建築」＝「建物」だと思っていたので、自分の建築に対する概念を覆されました。また、原田先輩がおっしゃっていた「建築家とはライフサイクルとして建築と共に生きている人」という言葉を聞いて、原田先輩の建築にたいする熱意を感じると同時に、建築家になるためには、自らの人生を建築にささげる決意が必要だということがわかりました。僕はまだ将来の夢が明確になっていませんが、原田先輩のように自分がなろうと思う職業に向かって、あきらめずに頑張っていきたいと思います。

**講義２　メディア（新聞）　潮　智史氏**

**「ひとにものを伝えるということ」**

自分も文章で人に物事を伝える仕事がしたいと考えているので、とてもためになるお話だった。新聞記者はものすごく勉強ができないとなれないものだというイメージがあったが、大切なのは事実を知りたいと思う気持ちなのだと聞き、納得した。事件が起きるのは会議室の中ではなく、現場での取材が最強のツールであり、基本的に自分次第でどこにでも行けるし、なんでも出来るというお話に勇気づけられた。大変だがとてもやりがいのある仕事だと感じ、興味がわいた。

**講義３　国際機関　T.S.氏**

**「国際会議でのお作法」**

先輩のお話を聞き、私は国を飛び出して活動することにとても興味を持ちました。特に印象的だったのは、英語がすごく出来るからといって国際機関の仕事に向いているわけではなく、公平性があり、規則を忠実に守れる人であればだれでも国際機関に入れる可能性があるというお話です。国際機関の会議では、

タイミングの良い発言や妥協点の見極め、さらに信頼関係を築くことが出来るかどうかが極めて重要だということです。先輩のように、高校生活の中で小さな出来事から高い志を持つことが出来るとわかったので、身近なことや社会を動かしている仕組みに、もっとたくさん興味を持ちたいと思います。

**講義 4　スポーツ　西村雄一氏**

**「夢と感動を支える者として」**

　レフリーは「感動を届ける」という目標に向かって動いているということにおいて選手と同じであり、スポーツは相手も仲間でリスペクトすることが大切ということがよく分かった。また、レフリーという仕事は、私たちが思っている以上に大変で準備が必要だけど、やりがいがあって素晴らしい仕事だと思った。試合という競い合いの場で強い人は心も強く、日ごろ感じているプレッシャーは自分が作った不安からなるもので、ミスしてもいいから挑戦しろ！という先輩の言葉に勇気を得た。責任をもって行動し、自分のやりたいことに夢中になって、誰かを喜ばせたり感動させたり出来る存在になりたいと思った。

**講義 5　教職　教育　太田正行氏**

**「教師に求められるもの」**

　私は今日の講座で「学び続けなければならない」という言葉がとても印象に残った。太田先生の授業で、教師というのはなって終わりではなく、なってからがスタートで、充実した内容、良い指導法を見つけて常に学び続けなければならないと分かった。教師には、教育に対する熱意と使命感や、子供の良いところを伸ばす力が求められる。豊かな人間性と思いやりを持った教師になれるよう、これからの生活で様々な経験をし、その一つ一つから自分に足りないところを補いたい。もう一度なぜ自分が教師になりたいのか見直し、何をすべきか考えてみたい。

**講義 6　法曹　酒井邦彦氏**

**「法律家になって社会を良くしませんか！」**

　法律家というと「弁護士」「検察」「裁判官」みたいに堅苦しくどこか遠いような職業だと思っていた。しかし、今生きている社会の至る所に「法」が絡んでいると知って、「法」というものをとても身近に感じることが出来た。また、バリアフリーの名のもと、さまざまに形が整えられているが、本当のバリアは心のバリアだというお話が胸にしみた。法の下では誰もが皆平等であるということの意味を問い直す必要がある。国際的な法律の運用や企業の弁護士など、「法」の持つ今までの狭いイメージからより広がった世界を知ることが出来たとても良い機会だった。

**講義 7　人類学　馬場遥男氏**

**「博物館の人類学研究者という生き方」**

　人類学の観点からは、「古人骨は昔の人々の情報が詰まったタイムカプセル」という表現が特に印象に残りました。私は今回「人類学とは何だろう」という程度の関心しか持たずに講義に参加させて頂いたのですが、人類学とはただ単に過去の研究をするだけではなくて、過去から学び未来を判断するというお話を伺い、すごく深い学問だということに気が付き、人類学というものに興味を持ちました。また、馬場

先輩のように、自分を冷静に判断できて、しっかりとした人生観を持てる大人になりたいと強く思いました。

**講義 8　公認会計士　中越一統氏**

**「公認会計士の業務について」**

正直、今回のガイダンスを聞かせていただくまで、会計士はパソコンに向かって数字を扱っているだけだと思っていました。ですが、中越先輩のお仕事の中で、実際に会社の事業の立ち上げに関わったり、人との関わり合いの中で仕事をしたりと仕事の幅が大きいことを知ることが出来ました。公認会計士試験の合格率は１０％で、その合格者のほとんどが２０代の人だというお話を聞き、自分ものんびりしていられないという気持ちになりました。PC スキルや EXCEL は必須であり、英語も出来た方がよいということなので頑張りたいです。今後の人生の職業選択にとても役に立つお話をたくさん聞くことが出来てよかったです。

**講義 9　情報処理　石川　裕**

**「博士号を取得する意味は？」**

博士号を取得してどうなるのか知らなかったが、企業に就職しても研究に自由度があることや、年をとってから大学の教員になる場合に必要だということがわかった。自分にとっては、大学進学が毎日の高校生活の目標になっていたが、大学進学はもっと大きな目標に向けての一里塚でしかないというお話が胸に響いた。学問をするには、独立自尊の精神が大切で、自分で考えて、自分で判断し、自分の責任で行動することを肝に銘じたい。人生において答えはないから、今のうちに大きな目標をもって、知らないことがあったら恥ずかしがらずに積極的に学び、頑張ろうと思うことが大事だと思う。

**講義 10　天文学　関井　隆**

**「天文学者になるには」**

天文学についてほとんど知識はなかったけれど、関井先輩のお話を聞いて、興味がわき、面白い学問だなと思った。天文学者の楽しみは、面白いと思った問題に取り組むことだと知って、研究職に魅力を感じた。天文研究は、一人で行うものもあるが、他の研究者と協力して宇宙の謎を科学的に解明するもので、数学や物理学を駆使して行うものだと知った。研究にも様々な種類があり、それぞれの分野で研究者が日々研究を積み重ねていると思うと、ただ尊敬しかない。これからは「宙」についてもう少し興味を持とうと思う。

**講義 11　環境　小林　光**

**「行政官として環境の仕事を担う」**

私は環境の話に興味があったので、今回の講演がとても楽しかったです。生態系は人間の世界そのものに似ていて、生態系をいじるのではなく人間の社会を変えていく必要性があること、人間の活動が自然に悪さをしないことの重要性がよくわかりました。また、国立公園の設置や下水道の整備のお仕事が、環境行政だと知って驚きました。環境や自然は人間の手で直接変えることができないからこそ、意識してコツコツと守っていったり、改善したりしていくこと、「環境にいいことをしよう！」という気持ちを持

ち続けることが必要なのだと感じました。

**講義 12　メディア（新聞）　小池　洋次氏**

**「記者ほど面白い商売はない」**

私はこれまで、記者という仕事について関心がなく、地味な仕事だろうなと勝手に思い込んでいたが、小池先輩のお話しを聞いて、広い世界で活躍し、仕事に対し誇りをもって楽しく働いていたことがわかり、興味を持った。特に、「メモを取らないことほど無駄なことはない！必ずメモする！」ということを聞き、メモをとり、その時に自分が考えたことや感じたことを書いてみようと思った。また、「アウトプットがなければ、インプットがない」という言葉に、確かに私も誰かに伝えようという意識で本を読んだり、話を聞くとより深く理解できると思った。先輩からの言葉「焦らずしかしたゆまず」を大切にしようと思う。

**講義 13　広告業界　須田健太郎氏**

**「広告の秘密」**

日常的に広告に触れることは多くありましたが、広告がこんなに深いものだとは全く知りませんでした。マクドナルドなどが行っているキャンペーンは、利益を求めるもので企業広告となることがよくわかりました。消費者に知ってもらうための手法は数々とあり、とくに話題性のある内容でバずらせ、議論を意図的に作らせるバイラル広告が興味深く感じました。また、１つの広告を作るのに６０人もの人が関わることを知って驚きました。「広告の裏側」のお話を聞いてとても興味を持ち、今後の生活で、広告についてしっかり見ようと思いました。

**講義 14　健康科学　篠原厚子氏**

**「薬剤師を目指した理由、研究職に変更したのは面白かったから」**

私は将来の進路として医療系を考えているので今回の講義を受けました。薬学部は６年制であり、国家試験に受かるためには決意とやる気をもって勉強し続けなければならないということが、いかに大変ですごいことなのかが伝わりました。薬学部に進学したとしても、実習をしてから進路を判断することも可能であると聞いて、とても参考になりました。女性は結婚したら専業主婦になるのが当たり前だった時代の固定観念に縛られず、自分の道を進まれた先輩を尊敬します。現在、進路に悩んでいますが、自分の行きたい学部を選び、自分のしたいことに大学での時間を使うべきだなと思えました。

**講義 15　アニメ　植田益朗氏**

**「アニメプロデューサー、一度やったらやめられない」**

アニメーションとは関係のない大学に進学したのちに、アニメプロデューサーになられたことに驚いた。今まで曖昧なイメージしかもっていなかったアニメプロデューサーという仕事が、裏方だが制作の重要な要であるということが分かった。アニメーションは一人で作るものではない。多くの違う役割を持つ人々が一つのチームとなって制作するのだ。ゼロから生み出すこの仕事は普通の仕事よりも難しいがそれだけやりがいがあるだろうと思った。自分が「何をしたいか、何を作りたいか」という心の芯になるような強いこだわりや価値観を持ち続けられるような大人になりたいと思いました。